資治通鑑　第 129 巻

令和 3 年 9 月 10 日

【宋紀十一】　起屠維大淵獻，盡閼逢執徐，凡六年。

■南宋、●北魏、続国訳漢文大成．経子史部 第 8 巻 26p

世祖孝武皇帝下大明三年（己亥，公元４５９年）

■春，正月，己巳（１日）朔，兗州兵は魏の**皮豹子**と高平にて戦い，兗州兵に利あらず。

■己丑（２１日），驃騎將軍の**柳元景**を以て尚書令と為し，右僕射の**劉遵考**を領軍將軍と為す。

●（二月）己酉（１１日）魏の河南公の**伊馥**は卒す。

■二月，乙卯（１７日），揚州の六郡（丹陽・淮南・宣城・呉郡・呉興・義興）を以て王畿と為し，更に東揚州（前巻孝建元年に置く）を以て揚州と為し，會稽に治を徙す，猶ほ星變（前巻孝建三年に見ゆ）を以ての故也。

■三月，庚寅（２３日），義興太守の**垣閬**を以て兗州刺史と為す。**閬**は，**遵**（垣遵は垣苗、武帝が長安を攻め垣遵に洛當城を守らせる、城は河済の會に拠り、後人は垣苗城と呼ぶ）の子也。

●夏，四月，乙巳（８日），**魏主**は其の弟の子の**推**を立てて京兆王と為す。(8-027p)

【竟陵王誕の叛乱】

■［竟陵王誕の誅殺へ］竟陵王の**誕**は**上**が意に之を忌むを知り，亦た潜かに之の備えを為す。魏人の入寇に因りて，城を修し隍を浚え，糧を聚め仗（ほこ）を治める。**誕**の記室參軍の**江智淵**は**誕**に異志有るを知り，假（休暇）を請いて先ず建康に還り，**上**は以て中書侍郎と為す。**智淵**は，**夷**の弟の子也，少くして操行有り。**沈懐文**は毎に之を稱して曰く、

「人應に有るべき所は盡く有り，人應に無かるべき所は盡く無き者は，其れ唯だ**江智淵**乎！」

■是の時，道路は皆な**誕**の反を雲う。會々呉郡の民の**劉成**（劉道龍と陳詠之は誕に仕え殺され、遺族は仇を取ろうとす）は上書して稱す、

「息（息子）の**道龍**は昔**誕**に事え，**誕**が石頭城に在りて乘輿法物を修め，警蹕（先払い）を習唱するを見る。**道龍**は憂え懼れ，私に伴侶と與に之を言い，**誕**は**道龍**を殺す。」

又た豫章の民の**陳談之**は上書して稱す、

「弟の**詠之**は**誕**の左右に在り，**誕**が陛下の年紀や姓諱を疏（続は書）し，巫鄭師憐の家に往き祝詛するを見，**詠之**は密かに以て啟聞し，**誕**は**詠之**が酒に乘り罵詈すと誣し，之を殺す。」

■**上**は乃ち有司に令して**誕**の罪惡を奏し，收めて廷尉に付して罪を治めるを請わしむ。乙卯（１８日），詔して**誕の**爵を貶して侯と為し，遣わして國に之かす。詔書未だ下らずして，先ず羽林の禁兵を以て兗州刺史の**垣閬**に配し，鎮に之くを以て名と為し、給事中の**戴明寶**と與に**誕**を襲わ使む。

■［誕の討伐軍が広陵攻略失敗、沈慶之登場］**閬**は廣陵に至るも，**誕**は未だ悟らざる也。**明寶**は夜**誕**の典簽の**蔣成**に報じ，明晨（夜明け）開門して內應を為さ使む。**成**は以て府（竟陵王府）の舍人の**許宗之**に告げ，**宗之**は入りて**誕**に告ぐ。**誕**は驚いて起ち，左右及び素より畜養せし所の數百人を呼びて**蔣成**を執り，兵を勒して自衛す。天は將に曉にならんとし，**明寶**は**閬**と精兵數百人を帥いて猝に至り，而るも門は開かず。**誕**は已に兵を列して陴に登り，自ら門上に在りて**蔣成**を斬り，作徒系囚（謹慎囚人）を赦し，開門して**閬**を擊ち，之を殺し，**明寶**は間道に從いて逃げ還る。詔して內外に纂嚴（戒厳）す。始興公の**沈慶之**を以て車騎

大將軍、開府儀同三司、南兗州刺史と為し，兵を將いて**誕**を討たしむ。

■甲子（２７日），**上**は親ら禁兵を總し宣武堂に頓す。

■司州刺史の**劉季之**は，**誕**の故の將（會稽の時に參軍、兵を起すとき將軍とする）也，素より都督の**宗慤**（豫州刺史で司州都督を兼任）と隙有り，**誕**の反を聞き，**慤**の害する所と為るを恐れ，官を委て，間道から自ら朝廷に歸らんとする。盱眙に至り，盱眙太守の**鄭瑗**は**季之**が**誕**と謀を同じくすと疑い，邀えて之を殺す。

■**沈慶之**は歐陽（江蘇省淮揚道儀徵県、現・揚州市儀徵市）に至り，**誕**は**慶之**の宗人の**沈道愍**を遣わして書を繼（續は齎）ぎ**慶之**を說かしめ，餉るに玉環刀を以てす。**慶之**は**道愍**を遣わして返らしめ，數める（罪を数える）に罪惡を以てす。**誕**は郭邑を焚き，居民を驅して悉く入城せ使め，閉門して自ら守り，書檄を分けて遣わし，邀は遠近に結ぶ。時に山陽の內史の**梁曠**は，家は廣陵に在り，**誕**は其の妻子を執り，使いを遣わして**曠**を邀えしめ，**曠**は使いを斬って之を拒む。(8-028p)**誕**は怒り，其の家を滅す。

■<u>［誕は表を奉じる］</u>**誕**は表を奉じて之を城外に投げて曰く、

「**陛下**は讒言を信用し，遂に無名の小人をして來りて相い掩襲せ令む。枉酷（曲げるむごい）に任えず，即ち誅翦（斬り滅ぼす）を加える。雀鼠は生を貪（續は偸）して，仰ぎて詔敕を違う。今親ら部曲を勒し，徐、兗を鎭扞（防ぐ）す。先に何の福に經りてか，同じく皇家のに生まれ、今何の愆（過ち）有りてか，便ち胡、越と成るや？鋒（きっさき）を陵（研ぐ）ぎ戈を奮い，萬沒（萬死）するとも豈に顧みんや。蕩（欲しいまま）定の期，冀わくは旦夕（朝晩）に在り。」

又た曰く、

「陛下の宮帷の丑（紐），豈に三緘（綴じ、言を慎む人）す可けんや！」（家語に孔子は周を觀て后稷の廟に入り、三度その口を緘し、その背に銘し曰く、古の言を慎む人なりと）

上は大いに怒り，凡そ**誕**の左右、腹心、同籍、期親（親族で期を決めて喪に服する者）の建康に在る者を並びて之を誅し，死者は千を以て數え，或いは家人は已に死し，方に城內より出奔する者有り。

■**慶之**は城下に至り，**誕**は登樓して之に謂って曰く、

「**沈公**は垂白（白髮を垂れる）之年，何んぞ苦しんで此に來たるか！」

慶之は曰く、

「朝廷は君の狂愚，少壯を勞するに足らざるを以ての故耳。」

■**上**は**誕**が魏に奔るを慮り，**慶之**をして其の走路を斷ぜ使む。**慶之**は移りて白土（江蘇省淮陽道江都県、揚州城の城外、現・揚州市広陵区・江都区）に營し，城を去ること十八里，又た新亭（廣陵城外）に進軍す。豫州刺史の**宗慤**、徐州刺史の**劉道隆**は並びて衆を帥いて來會す。兗州刺史の**沈僧明**は，**慶之**の兄の子也，亦た兵を遣わして**慶之**を助ける。是より先**誕**は其の衆を誑して，云う、

「**宗慤**は**我**を助く」

慤は至り，城を繞りて馬を曜（續は躍）らせ呼んで曰く、

「我は，**宗慤**也！」

■<u>［誕の逃亡と帰還］</u>　**誕**は衆軍の大きく集まるを見，城を棄てて北に走らんと欲し，中兵參軍の**申靈賜**を留めて廣陵を守らしめ，自ら步騎數百人を將して，親信並びに自ら隨い，聲は

「出でて戰かわん」

と雲い，邪て海陵（江蘇省淮陽道泰県、現・泰州市姜堰区）の道に趨く。**慶之**は龍驤將軍の**武念**を遣わして之を追わしむ。**誕**は行くこと十餘里，衆は皆な去るを欲せず，互いに**誕**に

「城に還らん」
と請う。**誕**は曰く、
「**我**還るは易き耳，**卿**は能く我が為に盡力する乎？」
衆は皆な許諾し，**誕**は乃ち復た還り，壇を築いて血を歃り以て衆に誓い，凡そ府州（竟陵王府と南兗州）の文武に皆な秩を加える。主簿の**劉琨之**を以て中兵参軍と為す。**琨之**は，**遵考**（時に朝廷に有りて尚書右僕射）の子也，辭して曰く、
「忠孝は並ぶを得ず。**琨之**に老父在り，敢えて命を承わらず。」
誕は之を囚えて十餘日，終に受けず，乃ち之を殺す。
■［増援部隊到着］右衛將軍の**垣護之**、虎賁中郎將の**殷孝祖**等は魏を撃ちて還り，廣陵に至り，**上**は並びて**慶之**の節度を受か使む。**慶之**は營を進め，廣陵城に逼る。**誕**は**慶之**に食を餉し，提挈（引っ提げる）する者百餘人，北門より出る。**慶之**は開き視ず，悉く之を焚く。**誕**は城上に於いて函表を授（続に「南史」では投）け，**慶之**に為に送るを請い，**慶之**は曰く、
「**我**は討賊の詔を受け，**汝**の為に表を送るを得ず。**汝**は必ず死を朝廷に歸せんと欲せば，自ら應に開門して使いを遣わすべし，**吾**は汝が為に護送す。」（胡三省曰く、誕が此を為すは帝が猜忍なるを以て、誕を開せんと欲するなり。慶之がこれを峻絶するは蓋し亦自ら謀を為すのみと）(8-029p)
■［顔竣を連座して誅殺］東揚州刺史の**顔竣**は母の憂に遭い，喪を送って都に還り，**上**の恩待は猶ほ厚く，**竣**は時に親舊に對して怨言有り，或いは語りて朝廷の得失に及ぶ。會々**王僧達**が罪を得（前巻前年），**竣**が之を譖るを疑う。將に死せんとし，具に**竣**の前後の怨望誹謗の語を陳ず。**上**は乃ち御史中丞の**庾徽之**をして劾奏せ使め，**竣**の官を免ず。**竣**は愈々懼れ，上啟して陳謝し，且つ生命を請う。**上**は益々怒り，詔して答えて曰く、
「卿は訕訐（誹り暴く）怨憤し，已に本望に孤く。乃ち復た思慮を過煩し，自ら全くせずを懼れる，豈に下と為りて上に事える誠節之至るならん邪！」
竟陵王の**誕**の反するに及び，**上**は遂に**竣**と**誕**の通謀を誣い，五月，**竣**を收めて廷尉に付け，先ず其の足を折り，然る後に死を賜う。妻子は交州に徙し，宮亭湖（鄱陽湖、江西省潯陽道）に至る，復た其の男口を沉（沈める）す。（胡三省曰く、顔竣が職を失いて懇望するは固より罪すべしと為す、而れども尋陽より東下する時の保護の功は忘れるべからざるなり。既にその身を殺し又その男口を沈めるとは、孝武帝も亦恩少なしと。）

●六月，戊申（１２日），**魏主**は陰山に如く。
■**上**は**沈慶之**に命じて桑裡（廣陵城の西南に在り）に於いて三烽を為らしめ，若し外城に克てば，一烽を舉げ，内城に克てば，兩烽を舉げ，**劉誕**を擒とすれば，三烽を舉げしむ。璽書をして督趣（督促）し，前後相い繼ぐ。**慶之**は其の東門を焚き，塹を塞ぎ，攻道を造り，行樓、土山並びに諸攻具を立つも，久しい雨に値い，攻城するを得ず。**上**は御史中丞の**庾徽之**をして**慶之**の官を免ずるを奏さ使め，詔して、
「問う勿かれ」
と以て之を激す。四月より秋七月に至り，雨は止み，城は猶ほ未だ拔かず。**上**は怒り，太史に命じて日を擇ばしめ，將に自ら江を濟って**誕**を討たんとす。太宰の**義恭**は固く諫め。乃ち止む。
■**誕**は初め城を閉じて使者を拒み，記室參軍の山陰の**賀弼**は固く諫め，**誕**は怒り，刀を抽き之に向い，乃ち止む。**誕**は兵を遣わして出戰せしめ，屢々敗れ，將佐は多く城を逾えて出て降る。或るひとは**弼**に、
「宜しく早く出るべし」

と勸め，**弼**は曰く、
「**公**は舉兵して朝廷に向かう，此の事は既に從う可からず。**公**の厚恩を荷なう，又た義として違背する無く，唯だ當に死を以て心を明かすべき耳！」
乃ち藥を飲んで自殺す。參軍の**何康之**等は開門して官軍を納れるを謀り，果たさず，關を斬り出でて降る。**誕**は高樓を爲り，**康之**の母を其の上に置き，之を暴露し，食を與えず。母は**康之**を呼ぶこと數日而して死す。**誕**は中軍長の濟陽の**范義**を以て左司馬と爲す。**義**の母妻子は皆な城內に在り，或は**義**に謂って曰く、
「事は必ず振わず（勝てない），子は其れ行かさん乎！」
義は曰く、
「**吾**は，人の吏也。子は以て母を棄てる可からず，吏は以て君に叛す可からず。必ず**何康之**の若く而して活きるは，**吾**は爲さ弗る也。」

【孝武帝は誕討伐で万歳】

■［誕討伐を聞いて萬歳と涕泣して誅すべし］**沈慶之**は衆を帥いて城を攻め，身は士卒に先んじ，親ら矢石を犯し，乙巳（９日），其の外城に克つ。勝ちに乘りて而して進み，又た小城に克つ。**誕**は兵の入るを聞き，走りて後園に趨き，隊主の**沈胤之**等は之を追及し，擊ちて**誕**を傷つけ，水に墜ちる，引出し，之を斬る。**誕**の母（文帝の殷修華）、妻（徐妃）は皆な自殺す。(8-030p)
■**上**は廣陵の平らぐるを聞き，宣陽門を出て，敕して左右に皆な萬歳を呼ばしむ。侍中の**蔡興宗**の輦に陪し，**上**は顧みて曰く、
「卿は何ぞ獨り呼ばすや？」
興宗は色を正して曰く、
「**陛下**は今日正に應に涕泣して誅を行うべし（親族相殘すは天理人倫にもとる），豈に皆な萬歳を稱するを得るや！」
上は悅ばず。
■［広陵城の虐殺］詔して**誕**の姓を留氏と貶め，廣陵城中の士民は大小と無く悉く命じて之を殺さしむ。**沈慶之**は五尺より以下は之を全くし，其の餘の男子は皆な死し，女子は以て軍賞と爲さんと請う。猶ほ三千餘口を殺す。長水校尉の**宗越**は決するに臨み，皆な先ず腸を刳ち眼を抉り，或は面を笞ち腹を鞭ち，苦酒（蒸し醢、酢）を創に灌ぎ，然る後に之を斬り，**越**は之に對し，欣欣として得る所有るが若し。**上**は其の首を石頭南岸に聚めて京の觀と爲し，侍中の**沈懷文**は諫めるも，聽かず。初め，**誕**は自ら將に敗れんとするを知り，黃門の**呂曇濟**をして左右の素より信ずる所の者と與に世子の**景粹**を將いて民間に匿れ使めんとし，謂って曰く、
「事若し濟らざれば，相い全くして脫するを思うべし。如し其の免れざるならば，深く之を埋める可し。」
各々金寶を以て分けて繼（續は齎）ぎ送る。既に門を出で，並んで散り走る。唯だ**曇濟**は去らず，**景粹**を攜え負いて十餘日，捕うを得，之を斬る。
■臨川內史の**羊璿**は**誕**と素より善く坐して，下獄して死す。
■**梁曠**を擢（拔擢）して後將軍と爲し，**劉琨之**に給事黃門侍郎を贈る。
■**蔡興宗**は旨を奉じて廣陵を慰勞す。**興宗**と**范義**は素より善く，其の屍（續は尸）を收斂して，喪を送りて豫章に歸る。**上**は謂って曰く、

「卿は何をか敢て故(ことさら)に王憲に觸れるや？」
興宗は抗言して對えて曰く、
「**陛下**は自ら賊を殺し，**臣**は自ら故交（朋友）を葬る，何の不可之れ有らん！」
上は慚じる色有り。(2021-0906)
■**宗越**は軍を治めるに嚴にして，善く營陳を為す。數萬人を止めて頓す毎に，**越**は自ら騎馬前行し，軍人を其の後に隨わ使め，馬は止まれば營合わせ，未だ嘗て參差(整わない貌)たらず。
■辛未（７月５日），大赦す。
■丙子（１０日），丹陽尹の**劉秀之**を以て尚書右僕射と為す。
■丙戌（２０日），南兗州刺史の**沈慶之**を司空と為し，刺史は故の如し。
●八月，庚戌（１５日），**魏主**は雲中に如く。壬戌（２７日），平城に還る。
■九月，壬辰（２７日），上林苑を玄武湖（文帝元嘉 22 年に北堤を築き玄武湖を樂游苑の北に立てる）の北に築く。
■［南郊の壇の祭祀復活］初め，晉人は南郊の壇を巳位（東南）に築き，尚書右丞の**徐爰**は以て非禮と為す。詔して牛頭山（江蘇省金陵道江寧県の南、現・南京市江寧区）の西に徙し，宮城の午位（南方）に直たる。**廢帝**（武帝の太子子業にして、大明八年に即位し翌年廃せられる）の即位に及び，舊地を以て吉と為し，復た故處に還る。(8-031p)**帝**は又た尚書左丞の**荀萬秋**に命じて五路(馬車)を造らしめ，金根車に依りて，羽葆(ほう)（おおう）蓋を加える。

世祖孝武皇帝下大明四年（庚子，公元４６０年）

●春，正月，甲子（１日）朔，魏は大赦し，和平と改元す。
■乙亥（１２日），**上**は籍田を耕し，大赦す。己卯（１６日），詔して郊に廟を祀り，初めて玉路（馬車）に乘る。庚寅（２７日），皇子の**子勳**を立てて晉安王と為し，**子房**を尋陽王と為し，**子頊**を歷陽王と為し，**子鸞**を襄陽王と為す。

■［北魏と南宋の国交開始］魏の散騎侍郎の**馮闡**は來聘す。
●二月，魏の衛將軍の樂安王の**良**は河西（龍門より華蔭の黄河の西岸）の叛胡を討つ。
●三月，魏人は北陰平（四川省嘉陵道劍閣県、現・広元市劍閣県）を寇し，朱提太守の**楊歸子**は擊ちて之を破る。
■甲申（２２日），**皇后**は親ら西郊に桑し，**皇太后**は禮を觀る。
●夏，四月，魏の太后の**常氏**（元は保太后、尊びて太后とする 127 卷文帝元嘉 30 年）は殂す。五月，癸酉（１２日、-癸丑×），魏は昭太后を鳴雞山（元は磨笄山という、直隸省保定道淶水県、現・保定市淶水県）に葬す。
■丙戌（２５日），尚書左僕射の**褚湛之**は卒す。

●［吐谷渾王］吐谷渾王の**拾寅**は宋、魏から爵命を兩つながら受け，居出入止は，王者に擬し，魏人は之を忿(いか)る。定陽侯の**曹安**は表して、(続は言わくが加わる)
「**拾寅**は今白蘭を保つも，若し軍を分けて其の左右に出れば，必ず南山に走りて保たん，十日過ぎずして，人畜は食乏しく，一舉に而して定む可からん。」
六月，甲午（４日），魏は征西大將軍の陽平王の**新成**等を遣わして統萬、高平の諸軍を督して南道より出で，南郡公の中山の**李惠**等をして涼州諸軍を督して北道より出で，以て吐谷渾を擊たしむ。

●［魏の史官復活］魏の**崔浩**の誅さるる也（125 巻宋文帝元嘉 27 年），史官は遂に廃するも，是に至りて復た置く。

●河西の叛胡は長安に詣りて首罪し（樂安公良は兵威を以てこれに臨み、故に首罪す），魏は使者を遣わして之を安慰せしむ。

■秋，七月，遣使して魏に如かしむ。甲戌（１４日），開府儀同三司の**何尚之**は卒す。

●壬午（２２日），**魏主**は河西に如く。

●魏軍は西平（甘粛省西寧道西寧県、現・西寧市城中区）に至り，吐谷渾王の**拾寅**は走りて南山を保つ。九月，魏軍は河を濟りて之を追い，疾疫に會い，引いて還り，雑畜二十餘萬を獲る。

●庚午（１１日），**魏主**は平城に還る。

■丁亥（２３日），襄陽王の**子鸞**を徙して新安王と為す。

■十月，庚寅（２６日），**沈慶之**に詔して緣江の蠻を討たしむ。

■［前盧陵內史の周郎の誅殺］前盧陵內史の**周郎**は，事を言うに切直（127 巻文帝元嘉 30 年）にして，**上**は之を衘（ふく）む。有司をして**郎**を奏せ使め，**(8-032p)**

「母の喪に居ること禮の如くならず」

と寧州に傳送し，道において之を殺す。**朗**の行く也，侍中の**蔡興宗**は方に直に在り，**朗**と別れん（暇乞い）を請う。坐して白衣にて職を領す。（胡三省曰く、蔡興宗が猜暴の朝に断ち范義を葬り周郎に別れ、時主の怒りを犯せども刑を加えざるは、素行以て人に孚する有ればなりと）

●［魏との国交２回目］十一月，魏の散騎侍郎の**盧度世**等は來聘す。

■［上と顔師伯の博打］是の歲，**上**は征青、冀二州刺史の**顔師伯**を侍中と為す。**師伯**は諂（てい）（へつらい）佞を以て親任を被り，群臣は及ぶ莫く，多く貨賄を納め，家は累して千金。**上**は嘗て之と與に樗蒱（ちょぼ）（サイコロゲーム）し，**上**は擲（なげう）ちて雉（サイコロの名前に、黒犢（こうとく）、雉、盧があり、盧が勝ち）を得，自ら必ず勝たんと謂う。**師伯**は次を擲げ，盧（ろ）（黒）を得，**上**は色を失う。**師伯**は遽（にわか）に子（采、師伯師伯がいかさまを為すの一端）を斂（おさ）めて曰く、「幾つ盧を作るや！」

是の日，**師伯**は一にして百萬を輸す（負ける）。

●柔然は高昌を攻め，**沮渠安周**（文帝元嘉 16 年に魏に敗れ弟安周と高昌に逃亡し保據）を殺し，沮渠氏は滅び，**闞伯周**を以て高昌王と為す。高昌が王を稱するは此れより始まる。

★『宋書』孝武帝紀大明四年十二月丁未（１９日）倭国王（興）が遣使して方物を献じた。

世祖孝武皇帝下大明五年（辛丑，公元４６１年）

■春，正月，戊午（１日）朔，朝賀す。雪は太宰の**義恭**の衣に落ち，六出有り，**義恭**は奏して以て瑞と為し，**上**は悦ぶ。**義恭**は**上**の猜暴を以て，自ら容れられざるを懼れて，毎に辭を卑しみ色を遜し，意を曲げ祗奉（しほう）す。是に由りて**上**の世の終わるまで，禍を免ずるを得る。

●二月，辛卯（４日），**魏主**は中山に如く。丙午（１９日），鄴に至り，遂に信都に如く。

■三月，遣使して魏に如かしむ。

●**魏主**は並（続は幷）、肆州（魏の道武帝の天賜二年に幷州の北境を分けて九原鎮を置き、大武帝の眞君七年に肆州を置く、山西省

雁門道忻県、現・忻州市西北）の民五千人を發して河西の獵道を治める。辛巳（２５日），平城に還る。
■夏，四月，癸巳（７日），更めて西陽王の**子尚**を以て豫章王と為す。
■庚子（１４日），詔して明堂を經始し，直ちに丙、己の地に大殿を作り，制は太廟の如く，唯だ十有二間を異なりと為す。

【海陵王の休茂の反乱】

■［雍州刺史海陵王の休茂の反乱］雍州（襄陽）刺史の海陵王の**休茂**は，年十七，司馬の新野の**庾深之**が府事を行う。**休茂**は性急にして，自ら専ら處決せんと欲し，**深之**及び**主帥**の毎に之を禁ずるに，常に忿恨を懐く。左右の**張伯超**は寵有り，罪惡多く，主帥（典籤）は屢々之を責む。**伯超**は懼れ，**休茂**を説いて曰く、
「主帥は密かに官の過失を疏し，以て啟聞せんと欲し，此くの如くせば恐らく好きは無し。」。
休茂は曰く、
「之を為すに奈何せん？」
伯超は曰く、
「唯だ行事（府事の庾深之）及び主帥を殺す有り，舉兵して自衛すべし。此（襄陽）は都を去ること數千里，大事は縦え成らずとも，虜中に入りて王と為るを失なわざらん。」(8-033p)
休茂は之に從う。

■［休茂の挙兵］丙午（２０日）夜，**休茂**は**伯超**等と夾轂（親衛、車を挟む）隊を帥いて，典簽の**楊慶**を城中に於いて殺し，金城を出で，**深之**及び典簽の**戴雙**を殺す。兵衆を徴集し，牙を建て檄を馳せ，佐吏（府州の僚属）をして己を上らせ使めて車騎大將軍、開府儀同三司と為り，黄鉞を加える。侍讀博士（諸王の家庭教師）の**荀詵**は諫め，**休茂**は之を殺す。**伯超**は軍政を專任し，生殺は己に在り，**休茂**の左右の**曹萬期**は身を挺して**休茂**を斫るも，克たず而して死す。

■［休茂は誅殺］**休茂**は城を出て營に行き，咨議參軍の**沈暢之**等は衆を帥いて閉門し之を拒む。**休茂**は馳せて還り，入るを得ず。義成（襄陽に治す）太守の**薛繼考**は**休茂**の為に盡力して城を攻め，之に克ち，**暢之**及び同謀の數十人を斬る。其の日，參軍の**尹玄慶**は復た兵を起こして**休茂**を攻め，生きて擒にし，之を斬り，母（文帝の蔡夫人）、妻は皆な自殺し，同黨は伏して誅す。城中は擾亂し，相い統攝する莫し。中兵參軍の**劉恭之**は，**秀之**（孝建元年に義宣に付かず、時に尚書右僕射）の弟也，衆は共に推して府州の事を行わしむ。**繼考**は兵を以て**恭之**を脅し，啟事を作ら使めて，言う、
「**繼考**は義を立つ，自ら驛に乗りて都に還らんとす」
上は以て北中郎咨議參軍と為し，爵して冠軍侯を賜る。事は尋ぎて洩れ，伏して誅す。**玄慶**を以て射聲校尉と為す。

■［諸弟の弾圧政策］**上**は自ら即位して以來，諸弟を抑え黜ける。既に廣陵に克ち，更に其の科を峻せんと欲す。**沈懐文**は曰く、
「漢明は其の子をして**光武**の子に比せ使めず（45 巻漢の明帝永平 15 年），前史では以て美談と為す。**陛下**は既に**管**（管仲）、**蔡**（蔡叔）の誅を明らかにし（周の威王は管仲を誅し蔡叔を囚う），願はくは唐、衛之寄（叔虞を唐に、康叔を衛に封じて周室の藩屏と為すの故事）を崇べよ。」
襄陽の平らぐに及び，太宰の**義恭**は**上**の旨を探知し，復た上表して諸王を裁き抑え，邊州に任ぜ使めずを請い，及び悉く器甲を輸し，賓客を禁絶せんとす。**沈懐文**は固く諫め，以て不可と為し，乃ち止む。
■［畋游するに度無し］**上**は畋游するに度無く，嘗て出でて，夜還り，敕して開門せしむ。侍中の**謝莊**は

居守し，檠信（通行証）は或るは虚ならんを以て，執りて旨を奉ぜず，墨敕（皇帝権力の絶対、墨敕的～）を須ちて乃ち開く。**上**は後に燕飲に因りて，従容として曰く、
「卿は**郅君章**（漢光武帝１３年に見える）に效わんと欲す邪？」
對えて曰く、
「臣は『王者は祭祀と畋游には，出入に節有り。』と聞く。今**陛下**は晨に往きて宵に歸り，臣は不逞之徒，妄りに矯詐を生むを恐れる。是を以て伏して神筆を須ち，乃ち敢えて開門する耳。」

●［**魏の大旱**］魏は大旱し，詔して、
「州郡の境内の神は大小無く，悉く灑掃（一掃）して禱（祈り）に致すべし。豐かに登るを俟ち，各々は其の秩を以て之を祭らしむ。」
是に於いて群祀の廢れる（魏が群祀をやめること 124 巻文帝元嘉 21 年にあり）者は皆な其の舊に復す。
●［**魏は萬壽を樂浪王と為す**］秋，七月，戊寅（２４日），**魏主**は其の弟の**小新成**（新成・陽平王の弟）を立てて濟陽王と為し，征東大將軍を加え，平原（黄河の津）に鎮ぜしむ。**(8-034p)天賜**を汝陰王と為し，征南大將軍を加え，虎牢（宋司州刺史の治所、魏は豫州を置く、河南省開封道氾水県、現・鄭州市滎陽市氾水鎮）に鎮ぜしむ。**萬壽**を樂浪王と為し，征北大將軍を加え，和龍（北燕の旧都、熱河道朝陽県、現・）に鎮ぜしむ。**洛侯**を廣平王と為す。
●壬午（２８日），**魏主**は山北を巡る。八月，丁丑（丁亥なら３日?、続も丁丑とする），平城に還る。
■戊子（４日），皇子の**子仁**を立てて永嘉王と為し，**子真**を始安王と為す。九月，甲寅（１日）朔，日に之を食す有り。

■**沈慶之**は固く司空を讓り，**柳元景**は固く開府儀同三司を讓る。詔して之を許し，仍ち**慶之**に命じて朝會の位は司空の次にし，俸祿は三司に依らしめ，**元景**は從公（晋の制度で文官の光祿三太夫、武官の驃騎東騎衛将軍、及び諸大将軍の開府する者）之上に在らしむ。
■**慶之**は目に書を知らず，家は素より富み，產業は萬金を累して，童奴は千計り。再び錢千萬，谷萬斛を獻ず。先に四宅有り，又た園捨有り婁湖（都の東南、江蘇省江寧県、現・南京市江寧区）に在り。**慶之**が一夕子孫及び中表の親戚を攜えて徙りて婁湖に居し，四宅を以て官に輸る。**慶之**は多く妓妾を蓄え，優遊無事にして，意を盡くして歡び娛み，朝賀に非らざれば門を出ず。車馬は率いて素にして，從者は三五人を過ぎず，之に遇う者は其の三公たるを知らざる也。
■甲戌（２１日），南豫州を移して湖（安徽省蕪湖道當塗県、現・馬鞍山市当塗県）に治す。丁丑（２４日），潯陽王の**子房**を以て南豫州刺史と為す。閏月，戊子（５日），皇太子妃の**何氏**は卒し，謚して獻妃と曰う。壬寅（１９日），更に歷陽王の**子頊**を以て臨海王と為す。冬，十月，甲寅（２日），南徐州刺史の**劉延孫**を以て尚書左僕射と為し，右僕射の**劉秀之**を雍州刺史と為す。
■［**子鸞と殷淑儀の寵愛**］乙卯（３日），新安王の**子鸞**を以て南徐州刺史と為す。**子鸞**の母は**殷淑儀**にして，寵は後宮を傾け，**子鸞**を愛するは諸子に冠たり，凡そ**上**の眄遇（眷顧寵遇）する所と為る者，**子鸞**の府に入らざるは莫し。南徐州と為るに及び，吳郡（近畿の揚州の大郡）を割いて以て之に屬す。
■［**張岱の有能さ**］初め，巴陵王の**休若**は北徐州刺史と為り，山陰令の**張岱**を以て咨議參軍と為し，府、州、國事を行わしむ（監国のようなもの）。後に臨海王の**子頊**は廣州（刺史）と為り，豫章王の**子尚**は揚州（刺史）と為り，晉安王の**子勳**は南兗州（刺史）と為る。**岱**は歷して三府の咨議、三王の行事と為り，典簽、主帥と

事を共にし，事を舉げて而して情は相い失わず。或るひとは**岱**は謂って曰く、
「主王（諸王が鎮に出ると僚属は主王となし、諸公は主公となす）は既に幼く，執事は多門なり，而るに毎に能く公私を緝（積むぐ）和す，雲何ぞ此に致るや？」
岱は曰く、
「古人は言う『一心は以て百君に事える可し。』我は政を為すに端平にして，物を待つに禮を以てし，悔吝之事は，由りて而して及ぶ無し。明暗短長は，更に是れ才用之多少耳。」
子鸞の南徐州と為るに及び，復た**岱**を以て別駕、行事と為す。**岱**は，**永**の弟也。

●［魏との国交３回目］魏の員外散騎常侍の**游明根**等は來聘す。**明根**は，**雅**の從祖弟也。(8-035p)
●魏の廣平王の**洛侯**は卒す。
■十二月，壬申（２０日），領軍將軍の**劉遵考**を以て尚書右僕射と為す。甲戌（２２日），制して民戸には歳に布四匹を輸さしむ。
■是の歳，詔して士族の雜婚（工商雜戸と婚をなす）する者は皆な將吏に補す。士族は多く役を避けて逃亡し，乃ち嚴に之の制を為り，捕え得れば即ち之を斬り，往往にして湖山に奔り竄して盜賊と為る。**沈懷文**は諫めるも，聽かず。

世祖孝武皇帝下大明六年（壬寅，公元４６２年）

●春，正月，癸未（２日），魏の樂浪王の**萬壽**は卒す。
■辛卯（１０日），**上**は初めて五帝を明堂に於いて祀り，大赦す。
■［揚州の秀才の顧法］丁未（２６日），秀、孝（秀才孝行）を中堂に於いて策す。揚州の秀才の**顧法**は對策して曰く、
「源清ければ則ち流れは潔く，神聖なれば則ち刑（続は一本には形）は全くす。躬化（自ら模範を示す）は（草に）風を上えるより易く、體訓は草（風に）偃すより速し。」（帝は厥の身を宮帷衽席の間に謹む時は、以て天下を化す可しとなり、の意味）
上は之を覽じ，其の諒なるを惡む也，策を地に投ず。
■二月，乙卯（４日），百官の祿を復す。三月，庚寅（１０日），皇子の**子元**を立てて邵陵王と為す。
■［直諫の沈懷文の左遷］初め，侍中の**沈懷文**は，數々の直諫を以て旨に忤う。**懷文**は素より**顏竣**、**周朗**と善く，**上**は**懷文**に謂って曰く、
「**竣**は若し我が之を殺すを知れば，亦た當に敢えて此くの如くならざりしなるべし。」
懷文は嘿然とす。侍中の**王彧**は，言の次に、
「**竣**、**朗**は人才之美なり。」
と稱し、**懷文**と相い酬和（詩文の応酬）す。**顏師伯**は以て**上**に白し，**上**は益々悦ばず。**上**は嘗て出でて雉を射（曹魏より以来、人主は率ね好みて自ら出でて雉を射る），風雨は驟に至る。**懷文**は**王彧**、**江智淵**と相い與に諫めるを約す。會々召されて雉場に入る，**懷文**は曰く、
「風雨は此くの如し，聖躬の宜しく冒す所に非ず。」
彧は曰く、
「**懷文**の啟する所は，宜しく從うべし。」

智淵が未だ言うに及ばす，**上**は弩を注ぎ色を作して曰く、
「卿は**顔竣**に效わんと欲す邪，何を以て恆に人事を知るや！」
又た曰く、
「**顔竣**は小子，先に其の面を鞭たざるを恨む！」
上は燕集する毎に，坐に在る者を皆な沉醉せ令め，嘲謔すること度無し。**懐文**は素より酒を飲まず，又た戯れる調を好まず，**上**は故に己と異ならんと欲すと謂う。**謝莊**は嘗て**懐文**を戒めて曰く、
「**卿**は毎に人と異なる，亦た何ぞ久しくす可けんや！」
懐文は曰く、
「**吾**は少來此くの如し，豈に一朝に而して變ずる可けんや！物に異ならんと欲するに非ず，性の得る所耳。」
上は乃ち**懐文**を出して晉安王の**子勳**（続は子勛、南兗州に鎮す）の征虜長史と為し，廣陵太守を領さしむ。(8-036p)

■［沈懐文の誅殺］**懐文**は建康に詣りて朝正（元正の朝會に赴く）し，事畢わりて遣り還され，女の病を以て期を申ねるを求め，是に至りて猶ほ未だ發せず，有司の糾する所と為り，官を免じ，禁錮さるること十年。**懐文**（呉興の人、建康の東）は宅を賣り，東に還らんと欲し，**上**は之を聞き，大いに怒り，收めて廷尉に付し，丁未（２７日），**懐文**に死を賜る。**懐文**の三子の**澹**、**淵**、**沖**は，行くゆく哭きて**懐文**の為に命を請い，見る者は之を傷む。**柳元景**は**懐文**を救わんと欲し，**上**に言って曰く、
「**沈懐文**の三子，塗炭は見る可からず。願わくは**陛下**は速かに其の罪を正さん。」
上は竟に之を殺す。

★［宋書本紀三月条、「倭国王世子興為安東将軍」］八月？「日本書紀」では安康天皇暗殺
世祖の大明六年・詔して曰く 「倭王の世子興は、奕た世々忠を載せ、外海に籓を作し、寧に境を稟化し、恭しく貢職を修める。新たに辺業を嗣ぎ、宜しく爵号を授け、安東将軍倭國王とす可し。」「日本書紀」（雄略６年） ４月呉国の使者が貢物を献ずると記す

■夏，四月，**淑儀殷氏**は卒す。追拜して貴妃とし，謚して**宣**と曰う。**上**は痛く悼みて已まず，精神は之れが為に惘惘として，頗る政事を廢す。■五月，壬寅（２３日），太宰の**義恭**の領司徒を解く。■六月，辛酉（１２日），東昌の文穆公の**劉延孫**は卒す。
●庚午（２１日），**魏主**は陰山に如く。
●［魏の石樓胡の賀略孫の反乱］魏の石樓胡（吐京胡）の**賀略孫**は反す，長安の鎮將の**陸真**は討ちて之を平らぐ。**魏主**は**真**に命じて長蛇鎮（陝西省関中道隴県、現・宝鶏市隴県）を城かしむ。氐の**豪仇辱檀**は反し，**真**は討ちて之を平げ，卒に城きて而して還る。
●秋，七月，壬寅（２４日），**魏主**は河西に如く。

■乙未（１７日、前後す），皇子の**子雲**を立てて晉陵王と為す。是の日卒し，謚して**孝**と曰う。
■［仏教の人主との関係の是非］初め，晉の**庾冰**は議して沙門をして王者を敬せ使む，**桓玄**は複た其の議を述べ，並びに行うを果たさず。是に至り，**上**は有司をして奏して曰わ使む、
「儒（家）、法（家）は枝派し，名（家）、墨（家）は條分すれども，親を崇び**上**を嚴うに至りて，厥の猷は爽

う靡し。唯だ浮圖（仏教）は教えを為すこと，經（印度伝来の思想）に反して傳（中国での解釈）を提し，文に拘わりて道を蔽い，末に在りて爾々扇ぐ。夫れ佛は謙卑（謙遜）を以て自ら牧し，忠虔を道と為す，寧ぞ膝を四輩に屈して而も禮を二親に簡（単）にし，耆臘（老僧・高僧）に稽顙（跪いて拝す）して而も萬乘に直體（身を屈しない）する者有らん哉！臣等は參議し，以為らく沙門の接見するには，比べて當に虔を盡くす。禮敬之容は，其の本俗に依るべし。」

九月，戊寅（１日），制して

「沙門は人主を敬うに致るべし。」

廢帝の即位するに及び，舊に復す。

■乙未（１８日），尚書右僕射の**劉遵考**を以て左僕射と為し，丹陽尹の**王僧朗**を右僕射と為す。**僧朗**は，**彧**之父也。**(8-037p)**

■冬，十月，壬申（２５日），**宣貴妃**を龍山（建康にあり、山形は龍に似る）に葬す。岡を鑿ちて道を通すこと數十里，民は役に堪えず，死亡（死する者逃亡する者）は甚だ衆し。江南の葬埋之盛んなるより，未だ之れ有らざる也。又た之が為に別に廟を立つ。

■魏の員外散騎常侍の**游明根**等は來聘す。

■（１１月）辛巳（５日），尚書令の**柳元景**に司空を加える。

●壬寅（２６日），**魏主**は平城に還る。

■［**元嘉歷の是非**］南徐州從事史の范陽の**祖沖之**は上言し，**何承天**の《元嘉歷》は疏舛（荒く乱れる）猶ほ多しと，更に新歷を造り，以て為す、

「舊法は，冬至の日に定まる處有り，未だ百載に盈たずして，輒ち二度差えり。今冬至の日の度をして，歲歲は微差あらしめば，將來久しく用いるとも，屢々改むるを煩らわす無からん。又た，子を辰首と為し，位は正北に在り，虛を北方の列宿之中と為す。今の歷の，上元の日の度は，虛一（28 宿の虛宿）より發す。又た，日辰之號は，甲子を先と為す。今の歷の上元は歲は甲子に在り。又た，承天の法は，日、月、五星は各々自ら元有り。今の法は，交會、遲疾あるも悉く上元歲首を以て始めと為す。」

上は歷に善き者をして之を難じ令め，屈する能わず。**上**の晏駕（遅いお出まし、崩御）に會いて，施行果たさず。

世祖孝武皇帝下大明七年（癸卯，公元４６３年）

■春，正月，丁亥（１２日），尚書右僕射の**王僧朗**を以て太常と為し，衛將軍の**顏師伯**を尚書僕射と為す。

■［**吏部郎の江智淵の憂卒**］**上**は毎に宴に集まるに因り，群臣をして自ら相い嘲訐（嘲り暴く）せ使め以て樂と為すを好む（続は無し）。吏部郎の**江智淵**は素より恬雅にして，漸く旨に會わず。嘗て**智淵**をして**王僧朗**を以て其の子の**彧**に戲れ使む。**智淵**は色を正して曰く、

「恐らく此の戲れ有るは宜しからずを！」

上は怒って曰く、

「**江僧安**は癡人なり，癡人は自ら相い惜しむ。」

僧安は，**智淵**之父也。**智淵**は席に伏せ涕を流す，此（続は是）に由りて恩寵は大いに衰える。又た**殷貴妃**の謚を議して懷と曰い，**上**は以て美を盡くさずと為し，甚だ之を銜む。它日，群臣と乘馬して**貴妃の**墓に至

り，鞭を擧げて墓前の石柱を指さし，**智淵**に謂って曰く、
「此の上には『懷』字有る容からず！」
智淵は益々懼れ，竟に憂を以て卒す。
■己丑（１４日），尚書令の**柳元景**を以て驃騎大將軍、開府儀同三司と為す。
■二月，甲寅（９日），**上**は南豫、南兗の二州を巡す。丁巳（続１２日、-丁卯は×），烏江（安徽省安慶道和県、現・馬鞍山市和県）に校獵す。壬戌（１７日），大赦す。甲子（１９日），瓜步山に如く。壬申（２７日），建康に還る。

■［様々な皇帝の許可制度］夏，四月，甲子（２０日），詔して、
「軍を將（続は臨）いて戰陳す非ざるより，並びに專殺するを得ず。其の罪重辟（つみ）に應じる者は，皆な先ず上して報を須つべし。違犯者は人を殺すを以て論ぜん。」(8-038p)
五月，丙子（２日），詔して曰く、
「今より刺史、守宰，民を動かし軍を興すは，皆な手ずから詔するを須ちて施行すべし、唯だ邊隅の外の警及び奸（続は姦）釁（隙間）内に發し，變が倉猝に起こる者は，此の例に從わず。」
■戊辰（戊子?１４日），左民尚書（曹魏の置く官）の**蔡興宗**、左衛將軍の**袁粲**を以て吏部尚書と為す。**粲**は，**淑**之兄子也。

■［世祖孝武皇帝は人を辱める］**上**は群臣を侮り狎れるを好み，自ら太宰の**義恭**以下，穢辱せらるるを免ぜす。常に金紫光祿大夫の**王玄謨**を呼んで老傖（傖は江北の人、王玄謨は本願地は太原）と為し，僕射の**劉秀之**を老慳と為し，**顏師伯**を齞（出っ歯）と為す。其の餘の短、長、肥、瘦，皆な稱目（綽名）有り。黃門侍郎の**宗靈秀**は體は肥え，拜起するに便ならず，集會に至る毎に，多く賜與する所，其の瞻謝し踣傾（傾き倒れる）せんを以て，歡笑を為さんと欲す。又た一崑崙（西域人か）の奴を寵し，杖を以て群臣を擊た令め，尚書令の**柳元景**以下皆な免ず能わず。唯だ**蔡興宗**の方嚴なるを憚り，敢て侵媟（侵し汚す）せず。**顏師伯**は儀曹郎（曹魏は 23 郎を置く）の**王玷之**に謂って曰く、
「**蔡**尚書は常に暱（なじる、続は昵）戲を免じ，人を去ること實に遠し。」
玷之は曰く、
「**蔡**豫章（蔡興宗の父廓）は昔の相府（武帝が晉の相の時に廓は司徒長史）に在り，亦た方嚴を以て狎れず。**武帝**の宴私之日は，未だ嘗て相い召さず。**蔡**尚書は今日は能く負荷（父の名を辱めないの意味）と謂う可き矣。」
●壬寅（２８日），**魏主**は陰山に如く。
■［帝は殷貴妃を哭すを強要］六月，戊辰（２５日），秦郡太守の**劉德願**を以て豫州刺史と為す。**德願**は，**懷慎**之子也。**上**は既に**殷貴妃**を葬り，數々群臣と其の墓に至り，**德願**に謂って曰く、
「**卿**は**貴妃**を哭せ，悲しむ者は當に厚く賞する。」
德願は聲に應じて慟哭し，膺を撫で踴擗（踊り胸をうつ）し，涕泗は交わり流る。**上**は甚だ悅び，故に豫州刺史に用いて以て之を賞す。**上**は又た醫術の人の**羊志**をして貴妃を哭せ令め，**志**は亦た嗚咽して悲しみを極む。他（続は它）日**志**に問う者有りて曰く、
「卿は那して此くも急に淚を副え得るや？」
志は曰く、
「我は爾の日自ら亡き妾を哭す耳。」

■[世祖孝武皇帝の人となり２]上の人と為りは機警（機転が利く）にして勇決（決断力ある），學問は博く洽，文章は華敏（華麗にして敏捷），書奏を省讀するに，能く七行を俱に下り（一目見て七行悟る），又た善く騎射し，而して奢欲は度無し。晉氏の江を渡るより（司馬睿の即位）以來，宮室は草創にして，朝宴の臨む所は，東、西二堂已。(8-039p)晉の**孝武**の末，始めて清暑殿を作る。宋が興こるも，增改する所無し。**上**は始めて宮室を大きく修し，土木は錦繡を被り，嬖（お気に入り）妾幸臣は，賞賜りて府藏を傾く。**高祖**の居する所の陰室（江左の諸帝は崩じればその居所を陰室として御物を置く）を壞し，其の處に於いて玉燭殿を起つ。群臣と之を觀るに，床（続は牀）頭に土障有り，壁上には葛の燈籠、麻の蠅拂を掛ける。侍中の**袁顗**は因りて盛に**高祖**の儉素之德を稱す。**上**は答えず，獨だ曰く、

「田舍公は此くを得るは，已に過ぎたりと為す矣。」

顗は，**淑**之兄の子也。

■秋，八月，乙丑（２３日），皇子の**子孟**を立てて淮南王と為し，**子產**を臨賀王と為す。

●丙寅（２４日），**魏主**は河西に畋す。九月，辛巳（９日），平城に還る。

■庚寅（１８日），新安王の**子鸞**を以て司徒を兼ねしむ。丙申（２４日），皇子の**子嗣**を立てて東平王と為す。冬，十月，癸亥（２２日），東海王の**禕**を以て司空と為す。己巳（２８日），**上**は姑孰に校獵す。魏の員外散騎常侍の**游明根**等は來聘す。**明根**の奉使は三返，**上**は其の長者たるを以て，之に禮して加える有り。十一月，癸巳（２２日），**上**は水軍を梁山にて習わす。十二月，丙午（６日），歷陽に如く。甲寅（１４日），大赦す。己未（１９日），太宰の**義恭**に尚書令を加える。癸亥（２３日），**上**は建康に還る。

世祖孝武皇帝下大明八年（甲辰，公元４６４年）

●春，正月，丁亥（１７日），**魏主**は其の弟の**雲**を立てて任城王と為す。

■戊子（１８日），徐州刺史の新安王の**子鸞**を以て司徒を領す。夏，閏五月，壬寅（５日），太宰の**義恭**は太尉を領す。

【孝武帝の殂と混乱】

■[世祖孝武帝の殂と廢帝即位]**上**は末年には尤も財利を貪り，刺史、二千石罷め還るや，必ず限りて獻奉せ使め，又た蒲戲（チョボ）を以て之を取り，要ず罄盡（取り尽くす）せ令めて乃ち止む。終日酣飲し，醒める時有るは少なく，常に凡に憑りて昏睡す，或いは外に奏事有れば，即ち肅然として容を整え，復た酒態する無し。是に由りて內外之を畏れ，敢て弛（ゆるみ）惰する莫し。庚申（２３日），**上**は玉燭殿に於いて殂す。（年は35）遺詔して、

「太宰の**義恭**は尚書令を解き，中書監を加える。驃騎將軍、南兗州刺史の**柳元景**を以て尚書令を領し，城內（台城）に入居せ使む。事は鉅（続は巨）細無く，悉く二公に關わらせ，大事は始興公の**沈慶之**と參決すべし。若し軍旅有れば，悉く**慶之**に委ねる。尚書の中事は，僕射の**顏師伯**に委ねる。外臨（続は監）に統べる所は，領軍將軍の**王玄謨**に委ねるべし。」

是の日，**太子**（子業）は**皇帝**に即位す，年十六。大赦す。吏部尚書の**蔡興宗**は親ら璽綬を奉じ，**太子**は之を受け，傲惰にして戚容無し。**興宗**は出でて，人に告げて曰く、(8-040p)

「昔**魯昭**（魯の昭公は襄公の死に際して悲しまず）は戚あらず，**叔孫**は其の終わらずを知る。家國之禍は，其れ此に在る乎！」

■甲子（２７日），詔して復た太宰の**義恭**を以て尚書の事を錄さしめ，**柳元景**に開府儀同三司を加え，丹陽尹を領さしめ，南兗州を解く。
●六月，丁亥（２０日），**魏主**は陰山に如く。
■秋，七月，己亥（３日），晉安王の**子勳**を以て江州刺史と為す。

●［柔然の受羅部真可汗立つ］柔然の**處羅**可汗は卒し，子の**予成**が立ち，號して**受羅部真**（柔然語で恵むの意味）可汗と曰い，改元して永康とす。**部真**は衆を帥いて魏を侵す。辛丑（４日），魏の北鎮遊軍は之を撃破す。
●壬寅（５日），**魏主**は河西に如く。高車の五部は相い聚りて天を祭り，衆は數萬に至る。**魏主**は親ら往きて臨みて之を視，高車は大いに喜ぶ。
■丙午（９日），**孝武**皇帝を景寧陵（丹陽の秣陵県の巖山にあり）に於いて葬し，廟號は**世祖**とす。
■庚戌（１３日），**皇太后**を尊して**太皇太后**と曰い，**皇后**を**皇太后**と曰う。

■［元嘉の制に戻す］乙卯（１８日），南北の二馳道（世祖の大明五年に南北二馳道を立て、閶闔門より朱雀門に至り、承明門より玄武門に至る、皇帝専用道路），及び**孝建**以來の改むる所の制度を罷め，還りて元嘉に依る。尚書の**蔡興宗**は都座（尚書八座のうちの會座）に於いて慨然として**顔師伯**に謂って曰く、
「**先帝**は盛德之主に非ずと雖も，要は道を以て始終す。三年改める無き（論語學而篇に曰く、三年父の道を改むる無きは孝と謂う可し）は，古典の貴とぶ所なり。今は殯宮始めて撤し，山陵は未だ遠からず，而るに凡そ諸制度の興造は，是非を論ぜす，一に皆な刋削し，復た禪代すと雖も，亦た爾るに至らず。天下の有識は，當に此くを以て人を窺うべし。」
■［義恭と顔師伯は空名］太宰の**義恭**は素より**戴法興**、**巢尚之**等を畏れ，遺を受けて輔政すと雖も，而も身を引いて事を避け，**師伯**は從わず。是れに由りて政は近習に歸す。**法興**等は朝權を專制し，威德は近く遠く行われ，詔敕は皆な其の手から出ず。尚書の事は大小と無く，鹹な焉に取り決め，**義恭**と**顔師伯**は但だ空名を守るに已。
■［蔡興宗の專権］**蔡興宗**は自ら職は銓衡（選考）を管するを以てし，**上**は朝に至る毎に，輒ち**義恭**の為に賢を登らせ士を進める之意を陳じ，又た得失を箴規（いましめ）し，博く朝政を論ず。**義恭**の性は惟撓（恐れ乱れる），阿して**法興**に順い，恆に旨を失はんを慮り，**興宗**の言を聞き，輒ち戰懼（戰々恐々）として答える無く，**興宗**が選事を奏する毎に，**法興**、**尚之**等は輒ち點定（點定國は×）回換し，僅かに在る者有り。**興宗**は朝堂に於いて**義恭**、**師伯**に謂って曰く、(8-041p)
「**主上**は諒（真実）暗にして，萬機に親らせず。而るに選舉は密事，多く刪改を被り，復た公の筆すに非ず，亦た知らず是れ何れの**天子**の意ぞや！」
數々**義恭**等と選事を爭い，往復して論じて（自説を固く）執る。**義恭**、**法興**は皆な之を惡む。**興宗**を左遷して新昌太守とす。既に而して其の人望を以て，復た之を建康に留める。
■丙辰（１９日），**何妃**を追いて立てて**獻皇后**と曰う。
■乙丑（２８日），新安王の**子鸞**の領司徒を解く。**戴法興**等は**王玄謨**の剛嚴を惡み，八月，丁卯（１日），**玄謨**を以て南徐州刺史と為す。
■［王太后は疾篤く，廢帝は鬼］**王太后**は疾篤く，**廢帝**を呼ば使む。**帝**は曰く、
「病人は間々鬼多し，那して往く可きや！」

太后は怒り，侍者に謂う、

「刀を取りて來い，我が腹を剖き，那して寧馨兒（こんな児）を生むを得るや！」

■己丑（２３日），**太后**は殂す。

●九月，辛丑（５日），**魏主**は平城に還る。癸卯（７日），尚書左僕射の**劉遵考**を以て特進、右光祿大夫と為す。

■乙卯（１９日），**文穆**（王后は孝武帝の諡に従う、武穆に作るべし）**皇后**を景寧陵に於いて葬す。

■冬，十二月，壬辰（２８日），王畿の諸郡を以て揚州と為し，揚州を以て東揚州と為す。癸巳（２９日），豫章王の**子尚**を以て司徒、揚州刺史と為す。是の歳，青州を移して東陽に治す（前巻孝建三年には歷城に治）。宋之境內，凡そ州は二十二，郡は二百七十四，縣は千二百九十九，戶は九十四萬奇有り。

■東方の諸郡は連歳旱（害），饑して，米一升は錢數百，建康は亦た百餘錢に至り，餓死者は什に六七。

令和１年５月 20 日　　原文翻訳開始　　7443 文字
令和２年５月 15 日　　完訳終了　　16757 文字
令和３年９月 10 日　　書下し終了　　18364 文字